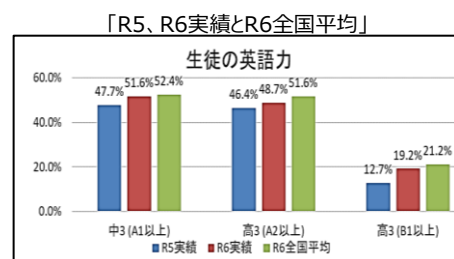


事業の
ポイント

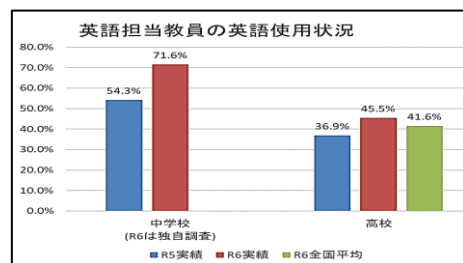
- ◆ 授業改善に向けて小学校でのICT活用の効果検証や、中学校でのオンライン国際交流等の取組（成果）を発信
- ◆ 学習指導要領に基づく授業改善に向けた講義や、各学校の実践事例の普及を図る研修の実施
- ◆ 他県合同開催や地域を越えた教員同士の課題改善に向けた情報交換を可能とした自治体連携アライアンスを活用した広域研修体制の構築

当該地域における課題

- ① 児童生徒の英語力の一層の向上と学習意欲の向上【小・中・高】
 - ・ 小学校では「英語の勉強が好き」な児童が68.6%(R5)から68.3%(R6)と一定水準を維持している(R6全国学力・学習状況調査質問紙より)。
 - ・ 中・高の英語力については全国平均には届かず、一層の向上が課題。
 - ・ 生徒の状況に応じた実践事例の集約・共有が不十分で、現場で活用できる教材や指導の具体が不足していたことが要因。
- ② 「指導と評価の一体化」の推進【中・高】
 - ・ パフォーマンステストの必要性への理解は進んだが、単元目標に基づく「指導と評価」を連動させた授業改善について全県的な定着が課題。
 - ・ 単元目標に準拠した一貫性のある指導計画や、各科目の目標等についての理解を促す周知・支援が十分でなかったことが要因。
- ③ 英語担当教員の授業における英語使用状況【中・高】
 - ・ 発話の半分以上を英語で行っている教員は増加したが、地域・学校間で差があり、生徒の思考を深める「質の高い英語使用」の定着に課題。
 - ・ 多様な実践事例の集約・共有が不足し、各校が十分に活用できる仕組みが整っていなかったことが要因。



【出典】英語教育実施状況調査



【出典】英語教育実施状況調査

2か年の取組内容（*全て2か年をとおした取組）

- ICTを活用した英語力向上に係る取組【小・中】（課題①・②）

小学校の研究推進校においてICT（録音・録画）の効果検証を継続。成功要因を抽出・事例化し、具体的活用モデルとして県全域及び県外にも共有を図った。

中学校での「オンライン国際交流」の実施により、その取組に向けて、目的意識を持った「やり取り」を中心とした授業構築を推進することができ、生徒の主体的な発話意欲の向上につながった。
- 自治体連携アライアンスによる広域的な授業改善支援【高】（課題①・②・③）

5県による広域アライアンスを構築した。オンラインセミナーや先進地域視察を通じ、本県単独では得られない多様かつ実践的な最新知見を収集した。

ICT（生成AI含む）の効果的な活用法やパフォーマンステストの手法など、収集した情報を各学校へ還流・展開する体制を確立した。
- 事例の普及に重点を置いた教員研修の実施【小・中・高】（課題①・③）

多様な地域・校種の教員による実践報告や公開授業を実施し、大学教授等の専門的・具体的な助言を現場の経験知と融合させた研修を実現した。

研修内容を自校で再現・共有するためのワークショップを導入するなどし、受講者個人の学びに留めず、組織的な授業改善へ繋げる還流システムを構築した。
- 教員・学校等への情報発信と連携【小・中・高】（課題①・③）

地域別研修や学校訪問を通じた授業参観・協議を実施し、地域や学校と「共に授業改善に取り組む」伴走体制を強化した。また、小中学校において、自分の地域の課題が可視化できるシートを作成し、地域や学校に提示した。

小中学校教員の英語指導力の底上げを図るため、学校現場の実態やニーズを丁寧に聞き取るとともに、ニーズに応じた研修の講座構築や地域の特性を踏まえた柔軟な指導助言を行った。

研修後も指導主事や他校教員とつながれるフォローアップ体制を整備し、オンラインで課題を聞き取るなどの支援体制により、自律的な授業改善を促進した。

取組に関する成果の検証

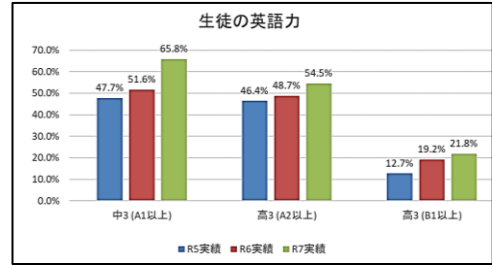
◆ 課題①に対する成果の検証

- ICT活用と指導法の改善、段階的な実践等により、学習意欲の向上につながった(小)。
- 国際オンライン交流および自治体連携アライアンスによる研修体制を通じて、生徒の英語力が上昇した(中高)。
- 学習指導要領に基づく授業改善に向けた講義や、様々な学校の実践報告を伴う事例の普及に重点をおいた研修の実施が成果に表れた。

<ICT活用の効果検証結果>（三重大学 金子淳 教授より）

- 英語力および情意面の双方に効果が確認された。
- 特に、情意面において、発表を苦手とする児童にとって自信や意欲を高める有効な手段となり得ることが示唆された(小学校の取組より)。

「英語力の推移（R5～R7）」



【出典】英語教育実施状況調査

◆ 課題②に対する成果の検証

- 他地域連携における合同研修の実施や教員同士の情報交換により、指導と評価の一体化に係る教員の自律的な実践が進んだ。

<アライアンス運営委員会の顧問による講評>

（武蔵野大学 江原 美明特任教授より）

指導主事が各県の英語教育の現状や課題について率直に意見を交わし、それらを講師と共有した上で研修テーマを設定する本プロジェクトの仕組みは大変意義深い。
また、オンラインというツールを効果的に活用しながら、各校から積極的に研修に参加し真摯に協議に加わる英語教員の姿勢は、今後の英語教育改革を着実に推進していく上で大きな力となるだろう。

<他地域連携における合同研修参加教員の声>（中学校教員）

A Iを活用した教材準備や評価事例を参考に、現場の状況に照らし合わせ、小中高を見通した効果的な指導を実践していきたい。

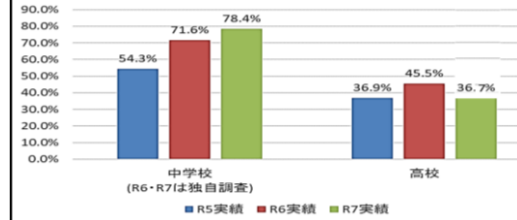
◆ 課題③に対する成果の検証

- 学校訪問や教員研修において学習指導要領の趣旨を踏まえた指導計画や教師の英語使用等について実践の具体例を示したことにより、英語担当教員の授業における発話の半分以上の英語使用状況は、中学校では改善が見られた。一方で、高校における英語使用状況は、伸び悩んでいる。これは、高校教員による実践紹介を行う研修の機会がなかったことが一因であると考えられる。今後は、具体的な実践事例を共有する研修の充実が必要である。
- 授業における英語使用の意義とともに、より具体的な実践例を提示していく必要がある。

<取組および授業実践の評価>（中京大学 亙理陽一 教授より）

- 英語教育に係る取組や研修が、県内の課題に即した一貫性のあるものであった。
- 課題改善に向け、授業改善へ前向きかつ主体的に取り組む教員の姿が見られた。

英語担当教員の英語使用状況



【出典】英語教育実施状況調査

当該地域における成果の普及の取組

□ 「Mie-英語授業PR大使」による情報発信

「Mie-英語授業PR大使」として任命された教員や教員志望の大学生等が、SNS等を通じ、効果的な研修の実践や先進的な授業事例を県内外へ発信した。

<https://www.instagram.com/miekenshuinsta/>

（三重県総合教育センター 公式Instagram）



□ 英語通信「Mie English News」の発行

全国学力・学習状況調査の結果分析や小学校のICT効果検証の取組状況、県内英語教育に係る取組等を定期的に各市町に発信した。

[英語通信閲覧リンク先]

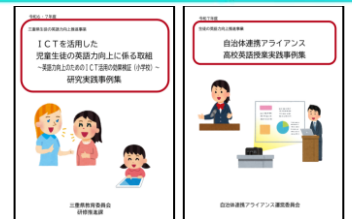
[Mie English News Vol.51](#) [Mie English News Vol.52](#) [Mie English News Vol.53](#)

□ 研究実践事例集の活用

ICT活用による効果検証結果や、アライアンスでの先進的な授業実践事例をとりまとめ、県内教員へ広く提供した。

[事例集のリンク先]

- 三重県総合教育センターホームページ [ICTを活用した児童生徒の英語力向上に係る取組 研究実践事例集](#)
- 三重県総合教育センターホームページ [自治体連携アライアンス高校英語授業実践事例集](#)



今後の取組

- 各市町や学校等が自律的に交流を継続し言語活動を日常化するための体制を整えるオンライン国際交流のプラットフォームの構築
- 他県との広域連携による実践アイデアの共有と生成AI等のICT活用の知見の深化を通じ、各校が自律的に指導プランを策定できる校内体制の定着を支援するため、取組の普及をめざす「自治体連携オンライン英語授業改善サポート研修」を継続
- 先導的な実践を共有する英語教育推進リーダーの活躍と、受講者が自ら問いを立て対話を通じ授業改善を探究する探究的な学びへの転換を図る教員研修の実施